

1. 職名・氏名 教授・瀬戸 雅文2. 学位 学位 博士(水産学)、専門分野 水産土木学、授与機関 東京水産大学、授与年月 1991年10月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 環境水理学(2単位 24コマ 毎年開講) 2年生(2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい 水理学の歴史的な役割と環境水理学誕生の社会的背景を理解し、自然環境の保全、生物との共生環境の創造に果たす学問的意義を講述する。特に、河川環境を中心に、実社会の水理学的諸課題を解決に導くための基礎的手法を修得する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 トピックや写真教材を多用して水理現象と社会や水圏生物との関わりを実感しながら理解できるように工夫する。講義に加えて水理実験(3班×各3コマ=計9コマ)を組み込み、水理現象を具体像に実感しながら、水理公式の利用方法を把握できるように配慮している。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 沿岸生態工学(2単位 15コマ 毎年開講) 3年生(2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい 沿岸環境の物理的要因に対する生物の適応的変化の事例を挙げながら、沿岸環境で多様な機能が形成・発達する要因や、水産資源を持続的に利用するために必要となる基礎的事項を概説し、沿岸環境を修復・創出し保全・管理するための基礎的手法を修得する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 干潟、藻場や沖合漁場の造成事例に携わった経験的知見を交えながら、わが国沿岸域で実施されてきた環境造成事業の歴史的変遷や、今後の動向、実施事例を具体的に紹介し、環境造成技術の実践的な利用方法を把握できるように配慮している。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 科学英語Ⅱ(2単位 8コマ) 3年生(2019年度)
② 内容・ねらい 海洋生物資源関連分野の英語で書かれた書籍や文献をテキストとし、適宜解説を加えながら講読させ、外国語によるコミュニケーションの基礎を修得する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 海洋深層水の性状と多分野への利活用、海洋生物資源の動態、および科学論文の書き方に関するテキストを教材として、輪読形式でパラグラフ毎に内容および専門用語の説明と意見交換を行い、これらを踏まえたレジュメを提出させ確認した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 海と暮らし(2単位 1コマ 分担 毎年開講) 1年生(2017年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい 海洋生物資源の管理や増養殖、及び資源を取り巻く環境や、資源利用、流通経済に関する広範な内容についてトピックス(15名で1コマずつ担当)を紹介し、海の諸問題や我々の暮らしとの関わりについて、多様な知識と幅広い見識を修得する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

一般教育科目として開講されているため、海洋生物資源学科以外の学部学科の受講生に配慮し、講義概要をまとめたA4,3 ページ程度のレジュメを配布している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
教養特講 D 福井を学ぶ (2 単位 1 コマ分担 毎年開講) 1 年生 (2017 年度以前～2019 年度)

② 内容・ねらい  
福井県立大学で学び始めた新生が、福井という地域の特性について幅広く学ぶとともに、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域における大学が果たす役割を理解する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
一般教育科目として開講されているため、若狭湾および周辺海域の成り立ちや魅力を動画や写真を交えながら平易な言葉で説明し、講義概要をまとめたレジュメを配布している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
海洋生態工学 (2 単位 毎年開講) 修士課程 (2016 年度以前～2018 年度)

② 内容・ねらい  
水圏生物の環境作用およびその相互作用を活用した環境制御の原理、人工生態系環境の造成のための方法論を講述している。海洋環境の動態と調和した生態系環境の保全や創出の考え方について海洋環境工学の観点より理解を深める。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
当方が国・地方自治体と実施した漁場整備や漁場環境調査、新技術の開発事例を教材として利用し、さらに、国内外で実施されている最新の技術開発動向も適時説明しながら、動画や写真を多用して生態系環境の保全や創出の現状と将来について概説している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
海洋生物資源学フィールド演習 (1 単位 毎年開講) 1 年生 (2017 年度)

② 内容・ねらい  
海洋生物資源学部におけるカリキュラムの内容と学び方を理解し、海洋生物資源の育成と利用に関わる課題を見出し、グループ討議を通じて解決のための道筋をデザインする能力を養う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
2017 年度は課題担当者として課題研究を指導し、小型振動流水槽を用いたハゼ科魚類の行動実験を指導した。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
専攻演習 (2 単位 30 コマ 毎年開講) 4 年生 (2017 年度以前～2019 年度)

② 内容・ねらい  
研究分野に関連する専門書を講読し、専門分野の課題と研究動向についての理解を深めるとともに、文献内容を総括し発表し討論する能力を養成することによって、卒業論文を進める上で必要となる科学的な思考力および解析力を養成する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
本学は生物・化学志向の学生が殆どのため、当研究分野に所属された学生についても、海洋で生じる物理的現象の基本的な考え方や基礎式の導出など、海洋環境工学に関わる基礎的事項を確実に修得できるように配慮している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
海洋生態環境学専攻演習 (2 単位 毎年開講) 修士課程 (2017 年度以前～2019 年度)

② 内容・ねらい  
生態学と環境工学の融合領域に関わる文献を講読、紹介、討議し、海洋生態系における生物と環境の関係について認識を深める。

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大学院の研究に関わる、海洋の物理諸過程や一次・高次生物生産、漁場造成を主対象とした文献を講読し、質疑応答を通して理解を深め、研究にフィードバックさせる。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋環境工学実習（1単位 毎年開講）3年生（2017年度以前～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 海洋調査船を用いて調査対象海域の水質・底質データを収集し、湾内の環境特性を考察する。実践的な海洋観測調査を体感し、共同作業による迅速な海上作業の実践や測得データの処理方法、解析結果の評価など一連の調査解析過程を修得する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 海洋観測に関する講義と調査概要の説明後、受講生を少人数の班に分けた上で、個々の役割分担や計測手順、更には取得データの管理や解析を可能な限り委ねながら、自主性や協調性を最大限に発揮して、効率的に作業を推進するための諸方策を見出せるように指導している。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8単位 240コマ 毎年開講）4年生（2017年度以前～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 研究分野に関係する課題を設定し、社会的背景に基づく仮説設定、研究手法や結果の解析、研究成果の公表や討論能力など一連の研究遂行過程を通じて、問題解決に向けた継続的努力やデザイン能力、プレゼンテーション能力を修得する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 水産環境整備に関わる課題を設定し、現地を視察し、課題に関わる地元の関係者と意見交換を行うことにより、課題解決へ向けた問題意識の向上や、実現可能な解決策の選択能力を養うとともに、成果を必ず公表し、地元に還元することの重要性を身につけさせている。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋生態環境学専攻実験（4単位 120コマ 毎年開講）修士課程（2017年度以前～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 海洋における物理現象の作用下での生物の動態を解明するための実験系を計画、実施、解析することにより、生態現象の実験的認識を深めるとともに、実験結果のまとめ方や専門性の高い研究成果をわかりやすくプレゼンテーションするための能力を修得する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 フィールドワーク経費等を活用して先進研究機関等を訪問し、実験施設や調査海域の視察・関係者との意見交換を通して研究遂行能力の向上に資する。研究計画報告会、中間報告会、最終報告会等を通してプレゼンテーション能力の向上を図る。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>

#### 4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>① 原著論文（査読付）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸雅文・水田尚志・巻口範人、波浪環境がマナマコの生態特性や組織構造に及ぼす影響、寒地技術論文・報告集（論文部門）、第33巻、2017.</li> <li>・中谷鷹、瀬戸雅文、巻口範人、波浪環境がエゾアワビの生息場形成に及ぼす影響、海洋工学シンポジウム論文集、第27巻、2018.</li> <li>・瀬戸雅文、巻口範人、消波根固めブロックの収束性残差流形成機構に関する研究、海洋工学シンポジウム論文集、第27巻、2018.</li> </ul>

- ・瀬戸雅文,中谷鷹,巻口範人,エゾアワビの付着力と流体力特性に関する基礎的研究,寒地技術論文・報告集(論文部門),第34巻,2018.
- ・瀬戸雅文,巻口範,気候変動が胆振海岸産ウバガイの初期生活期に与える影響,寒地技術論文・報告集(論文部門),第35巻,2019.

② 著書

- ・水産工学技士養成講習テキスト、共著、増養殖概論(1~35頁)担当、2019、水産土木建設技術センター。

③ 学会報告等

- ・瀬戸雅文・水田尚志・高田優也・巻口範人、波・流れによる高品質ナマコ選別技術の開発、平成29年度日本水産工学会学術講演会論文集、2017
- ・瀬戸雅文・清水淳平・巻口範人、シルト含有量がウバガイの摂餌行動に与える影響、平成29年度日本水産工学会学術講演会論文集、2017
- ・瀬戸雅文・大久保創平・巻口範人、海底勾配が二枚貝資源の分布特性に及ぼす影響、2017年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集、2017
- ・瀬戸雅文,南部元樹,河端美香,非定常流場におけるテーパ円柱の上下混合促進機構,平成30年度日本水産工学会学術講演会論文集,2018
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,エゾアワビ人工種苗の波浪耐性と寄り藻捕捉能力,平成30年度日本水産工学会学術講演会論文集,2018
- ・大久保創平,瀬戸雅文,巻口範人,海水温変化がウバガイ浮遊幼生の遊泳・着底行動に及ぼす影響,2018年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集,2018
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,波浪場におけるエゾアワビに作用する流体力が匍匐行動に及ぼす影響,2018年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集,2018
- ・瀬戸雅文,大久保創平,巻口範人,気候変動がウバガイの初期生活期における生残過程に及ぼす影響,2019年度日本水産工学会学術講演会論文集,2019
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,エゾアワビの抗力係数と質量力係数,2019年度日本水産工学会学術講演会論文集,2019
- ・瀬戸雅文,巻口範人,海水温・波浪の経年変化がウバガイ着底稚貝の移動分散過程に及ぼす影響,2019年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集,2019
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,水理模型実験による人工リーフの寄り藻捕捉機構の解明,2019年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集,2019
- ・瀬戸雅文,水産環境整備における気候変動への適応策と課題,沿岸環境関連学会連絡協議会要旨集,2020
- ・瀬戸雅文・清水淳平・巻口範人、ウバガイの成長に伴う生息域の変動機構—波・流れと無機懸濁物に対する耐性—、水産学会、東京海洋大学、東京都港区、2017.3.29
- ・瀬戸雅文・水田尚志・高田優也・巻口範人、波・流れによる高品質ナマコ選別技術の開発、日本水産工学会、水産大学校、下関市、2017.5.28
- ・瀬戸雅文・清水淳平・巻口範人、シルト含有量がウバガイの摂餌行動に与える影響、日本水産工学会、水産大学校、下関市、2017.5.28
- ・瀬戸雅文・大久保創平・巻口範人、海底勾配が二枚貝資源の分布特性に及ぼす影響、水産海洋学会、広島市西区民文化センター、広島市、2017.11.16
- ・瀬戸雅文・水田尚志・巻口範人、波浪環境がマナマコの生態特性や組織構造に及ぼす影響、寒地開発研究会、札幌コンベンションセンター、札幌市、2017.12.1
- ・瀬戸雅文・南部元樹、二枚貝中間育成における自律運用管理プロセスの確立、日本水産学会、三重大学、津市、2017.12.2
- ・瀬戸雅文,南部元樹,河端美香,非定常流場におけるテーパ円柱の上下混合促進機構,日本水産工学会,水産学会,東京海洋大学,東京都港区,2018.5.12
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,河端美香,エゾアワビ人工種苗の波浪耐性と寄り藻捕捉能力,日本水産工学会,東京海洋大学,東京都港区,2018.5.12
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,波浪環境がエゾアワビの生息場形成に及ぼす影響,日本船舶海洋工学会/日本海洋工学会,日本大学駿河台キャンパス,東京都千代田区,2018.8.7

- ・瀬戸雅文,巻口範人,消波根固めブロックの収束性残差流形成機構に関する研究,日本船舶海洋工学会/日本海洋工学会,日本大学駿河台キャンパス,東京都千代田区,2018.8.7
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,波浪場におけるエゾアワビ人工種苗の行動特性,水産学会秋季大会,広島大学東広島キャンパス,東広島市,2018.9.16
- ・大久保創平,瀬戸雅文,巻口範人,波浪特性の季節変化がウバガイの初期生活期に及ぼす影響,水産学会秋季大会,広島大学東広島キャンパス,東広島市,2018.9.16
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,波浪場におけるエゾアワビに作用する流体力が匍匐行動に及ぼす影響,水産海洋学会研究発表大会,東京大学大気海洋研究所,柏市,2018.11.17
- ・大久保創平,瀬戸雅文,巻口範人,海水温変化がウバガイ浮遊幼生の遊泳・着底行動に及ぼす影響,水産海洋学会研究発表大会,東京大学大気海洋研究所,柏市,2018.11.17
- ・瀬戸雅文,中谷鷹,巻口範人,エゾアワビの付着力と流体力特性に関する基礎的研究、寒地開発研究会、札幌コンベンションセンター、札幌市、2018.12.5
- ・瀬戸雅文,大久保創平,巻口範人,気候変動がウバガイの初期生活期における生残過程に及ぼす影響,日本水産工学会,福井県立大学,小浜市、2019.5.19
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,エゾアワビの抗力係数と質量力係数,日本水産工学会,福井県立大学,小浜市、2019.5.19
- ・瀬戸雅文,巻口範人,海水温・波浪の経年変化がウバガイ着底稚貝の移動分散過程に及ぼす影響,水産海洋学会研究発表大会,東北大学農学部,仙台市,2019.11.9
- ・瀬戸雅文,巻口範人,気候変動が胆振海岸産ウバガイの初期生活期に与える影響,寒地開発研究会,札幌コンベンションセンター,札幌市,2019.11.29
- ・中谷鷹,瀬戸雅文,巻口範人,水理模型実験による人工リーフの寄り藻捕捉機構の解明,水産海洋学会研究発表大会,東北大学農学部,仙台市,2019.11.9
- ・瀬戸雅文,海水温変化がウバガイ浮遊幼生の遊泳・着底行動に及ぼす影響,平成30年度あさり勉強会,東京海洋大学,東京都港区,2018.12.20

④ その他の公表実績

- ・瀬戸雅文、水産協調型人工リーフの順応的管理に関する研究（その3）、平成28年度共同研究報告書、2017
- ・瀬戸雅文、人工リーフ産乾燥ナマコの品質向上効果に関する研究（その2）、平成28年度共同研究報告書、2017
- ・瀬戸雅文、水産協調型人工リーフの順応的管理に関する研究（その4）、平成29年度共同研究報告書、2018
- ・瀬戸雅文、人工リーフのエゾアワビ増殖場としての活用手法に関する研究（その1）、平成29年度共同研究報告書、2018
- ・瀬戸雅文、水産協調型人工リーフの順応的管理に関する研究（その5）、平成29年度共同研究報告書、2019
- ・瀬戸雅文、人工リーフのエゾアワビ増殖場としての活用手法に関する研究（その2）、平成29年度共同研究報告書、2019

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動

- ・平成29年度日本水産工学会学術講演会・座長、2017.5.27-5.28
- ・平成30年度日本水産工学会学術講演会・座長、2018.5.12-5.13
- ・2019年度日本水産工学会学術講演会・座長、2019.5.18-5.19
- ・2019年度日本水産工学会春季シンポジウム・司会、2019.5.20

学会での役職など

- ・土木学会、海洋開発委員会海洋開発論文集査読委員、2017年度以前～2019年度
- ・日本水産工学会、評議員・理事・編集委員会委員、2017年度以前～2019年度

学会・分科会の開催運営

- ・2019年度日本水産工学会学術講演会、2019.5.18～5.19、小浜キャンパス
- ・2019年度日本水産工学会春季シンポジウム、2019.5.20、小浜市まちなかの駅・旭座
- ・2019年度日本水産学会秋季シンポジウム、2019.9.8～9.10、永平寺キャンパス

査読	
・土木学会論文集 B3 (土木学会) 年 5 編程度	2017 年度以前～2019 年度
・水産工学 (日本水産工学会) 年 2 編程度	2017 年度以前～2019 年度
・海洋深層水研究	2017 年度
・水産海洋研究 (水産海洋学会)	2018 年度
(3)研究会活動等	
①その他の研究活動参加	
②その活動による成果	
(4)外部資金・競争的資金獲得実績	
・2017 年度	科学研究費 挑戦的萌芽研究 182 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 100 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 50 万円 研究代表者
・2018 年度	科学研究費 挑戦的萌芽研究 65 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 100 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 50 万円 研究代表者
・2019 年度	科学研究費 挑戦的萌芽研究 30.5 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 100 万円 研究代表者
	共同研究費 北海道栽培漁業振興公社 50 万円 研究代表者
(5)特許出願	
(6)研究活動の表彰	

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体	
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会	
・水産基盤整備調査事業(漁港・施設)検討会委員	国の直轄調査の審議 2017 年度
・水産基盤整備調査事業(計画・漁場)検討会委員	国の直轄調査の審議 2018 年度
・水産基盤整備調査事業(設計・積算)検討会委員	国の直轄調査の審議 2019 年度
・胆振海岸技術検討委員会委員,国土交通省北海道開発局の海岸事業の技術検討,年 4 回 (事前説明会 2 回含む),2017 年度以前～2019 年度	
・胆振海岸保全対策水産部会委員,胆振海岸の水産協調型利用促進検討,年 4 回 (事前説明会 2 回含む),2017 年度以前～2019 年度	
・餌料生物現存量の原単位化調査検討委員会委員長,国が実施する水産環境整備事業の評価方針検討,年 2 回,～2017 年度	
・伊万里湾漁場環境改善調査検討委員会委員,伊万里湾の環境保全対策検討,年 2 回,2017 年度～2019 年度	
・サンゴ礁の面的保全・回復技術検討委員会委員,サンゴ礁の保全・回復技術の実証試験検討,年 2 回,2018 年度～2019 年度	
② 国・地方公共団体等の調査受託等	
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加	
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動	
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等	
・小浜キャンパスを育てる会 (総会) : 総会挨拶、2019 年 6 月 28 日、小浜市働く婦人の家	
⑥ 高大連携 (開放講義等に関する連絡協議会が主催する講義、および高校が主催する活動)	
・美方高校,出張講義,2018.10.31	
・兵庫県立香住高校、大学教育研究概要講義、2017.4.19	
・京都海洋高校、大学教育研究概要講義、2018.6.8	

⑦ その他

- ・水産工学技士養成講習会講師,沖縄県青年会館大ホール,2017.4.17,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,北海道自治労会館中ホール,2017.6.5,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,東陽セントラルビルホール,2017.10.24,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,ももち浜 SPR ホール,2017.11.27,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,沖縄県青年会館大ホール,2018.4.16,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,青森県観光物産館アスパム会議室,2018.6.4,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,TKP 神田駅前ビジネスセンター,2018.10.23,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,TKP ガーデンシティ博多アネックス,2018.11.26,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,沖縄県青年会館大ホール,2019.4.15,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,いわて県民情報交流センター,2019.6.3,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,東陽セントラルビルホール,2019.10.7,増養殖概論
- ・水産工学技士養成講習会講師,福岡県中小企業振興センター,2019.11.25,増養殖概論

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等

① 公開講座・オープンカレッジの開講

② 社会人・高校生向けの講座

- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、敦賀高校、2017.7.5
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、若狭高校、2017.9.12
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、敦賀気比高校、2017.9.29
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、丹生高校、2018.7.3
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、仁愛女子高校、2018.7.10
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、丸岡高校、2018.9.7
- ・高校教員向けの入試説明会：大学概要説明および学部説明、羽水高校、2018.7.24

③ その他

(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）

- ・学科長（2019年度）

(2)委員会・チーム活動

【全学】

- ・入学試験本部員 2017年度～2018年度
- ・人権擁護・倫理委員会 2017年度～2018年度
- ・大学院委員会 2019年度
- ・キャリアセンター協議会 2019年度
- ・海洋生物資源臨海研究センター運営会議 2019年度
- ・水産増養殖の新学科設置プロジェクトチーム委員 2019年度

【学部・学科】

- ・将来計画委員会 2017年度～2019年度
- ・編入学・転学部担当 2017年度～2019年度
- ・入試制度検討委員会 2017年度～2018年度
- ・備品更新費配分担当 2018年度～2019年度
- ・カリキュラムWG 2018年度～2019年度
- ・新学科計画WG 2019年度
- ・学科再編WG 2019年度
- ・高大連携担当 2019年度
- ・入試企画・オープンキャンパス担当 2017年度～2019年度
- ・教育環境改善担当 2019年度

- ・年報担当 2019年度
- ・JABEE委員会 2019年度
- ・教育評価委員会 2019年度
- ・学科予算担当 2019年度

(3)学内行事への参加

- ・2017.8.6、オープンキャンパス企画運営・永平寺キャンパス担当
- ・2017.10.8、ミニオープンキャンパス企画運営
- ・2018.8.5、オープンキャンパス企画運営・永平寺キャンパス担当
- ・2018.10.21、ミニオープンキャンパス企画運営
- ・2019.8.4、オープンキャンパス企画運営・永平寺キャンパス担当

(4)その他、自発的活動など